

令和7年度普及活動アルバム

北信農業農村支援センター

北信地域は長野県の最北端に位置し、管内市町村の多くが豪雪地域に指定されています。厳しい自然環境下にあっても、農業者と関係者の知恵と工夫と熱意により、地域の特徴を生かした先進的な農業が展開されています。

特に、水稲、果実、きのこ類は県内に留まらず全国をリードする産地となっています。

令和7年度は春先の凍霜害は軽微であったものの、5月21日に中野市から山ノ内町にかけて強風伴う降雹により4億円余の被害が発生しました。発生翌日からJA営農技術員と現地調査を実施し、今後の生育管理などについて指導しました。7月以降、高温少雨に推移し、果実や野菜などで小玉となり、昨年より収穫量が減収となりました。

このような中、当支援センターとしては、新規就農者(令和7年度29名(49歳以下))及び青年農業者の育成を主とした研修講座「北信州農業道場」を中心に、担い手の確保育成に取り組みました。県内他地域と比べて親元就農が圧倒的に多いことが特徴となっており、近年は、ぶどうの好調を反映して、果樹、特にぶどうでの就農が増えています。

関係する皆様の御理解と御協力に感謝し、活動の一部を御紹介します。



【4月～2月】

「北信州農業道場」各講座に加え、 新規就農者激励会、交流会を開催

新規就農者を主な対象として基本的な知識や技術力を養成し、経営の早期安定を支援するための講座を開催。

- ・「もも・ぶどうコース」7回講座
受講生 20名(修了者 13名)
- ・「野菜・花きコース」7回講座
受講生 13名(修了者 5名)

農業全般の基本的な知識の習得を目的に5つの選択講座を開催。

- ・「農業機械」「鳥獣害対策」「農業簿記」、「水稲」、「えのきたけ栽培」
受講生 延べ 88名

新規就農者激励会を7月に開催し、新規就農者7名、先輩農業者13名、関係機関等あわせて計42名が参加し、有意義な交流ができました。

12月には農業道場交流会を開催し、地域の青年農業者と道場受講者、関係団体等約50名が参加しました。農業青年クラブ員による意見発表・課題解決発表、青年クラブの活動紹介等が行われました。





**【5～8月】（重点活動）
「ジュース用トマトの一挙収穫の
事例調査と動画作成」**

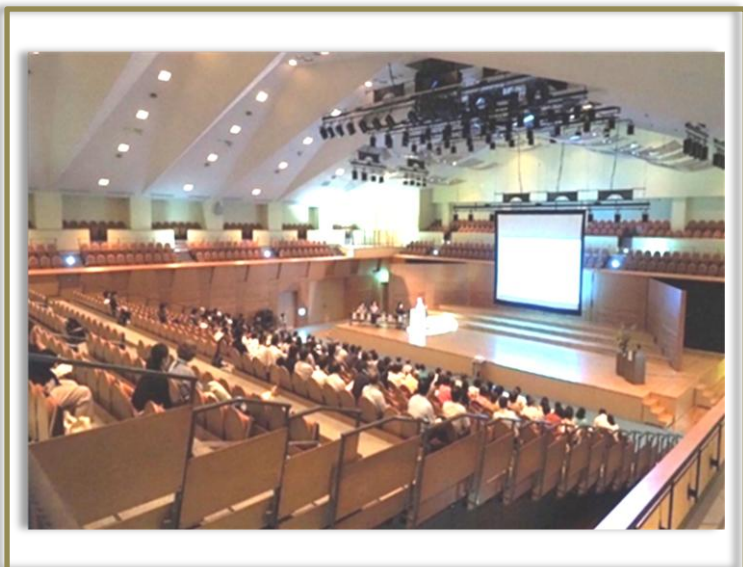
「一挙収穫」は、ジョイントレスで同熟性の高い品種を用い、全体が熟したところで一挙に収穫する方法で、1回目に第1果房を中心手採りし、2回目にふるい落としによる一挙収穫を行います。経営体から作業時期や方法を聞き取りし、ふるい落としによる収穫方法を動画にし、生産者へ情報提供しました。



**【5月～】
気象災害（ひょう害）後の技術指導**

5月21日夕方発生した突風（最大風速：中野市 18.1m/s、山ノ内町 11.5m/s）交じりの降雹（最大 1cm）により、中野市・山ノ内町において果樹・野菜・花き等で4億円余の被害が発生しました。

発生翌日からJA 営農技術員と現地調査を実施し、生産者団体と連携し、被災農家に対して今後の栽培管理等の技術指導を行いました。大規模なひょう害のため、経過観察地点を設置し追跡調査を行いました。



**【8月】
「北信州農村女性のつどい」の開催
支援**

管内の女性農業者等が集まり、地域内外の先進的な事例や活動を学び、交流するために毎年開催しています。今年度は山ノ内町で「農業と観光」をテーマに開催し、総勢 150名以上の参加がありました。

これまで地域外からの集客に注力しがちでしたが、地域内の魅力を再発見する良い機会となりました。



【8月】 スマート農業技術の普及拡大

農業従事者の高齢化や減少などを補うため、スマート農業機械が開発され、より軽労化・省力的な作業が可能となってきています。

管内では、令和7年4月に「北信地域スマート農業推進会議」を設立し、8月6日に飯山市内の水稻栽培を行っている農業法人の畦畔で草刈機5社の実演と現地検討会を開催しました。

導入にあたってはコスト増大の課題はありますが、中山間地域の課題となる大きな法面での除草を効率的かつ安全に行うため、各機械の特性を確認していました。



【通年】 野生鳥獣被害対策の推進

広域防護柵の設置等による野生鳥獣被害対策が行われていますが、シカやカラスなど一部の獣種による被害が目立っています。また、クマによる農作業中の人身被害が懸念されるため、各種指導会などの機会を捉えた啓発活動を市町村や関係団体などと連携して実施しました。

具体的には、廃果の適切な処理の啓発、センサーカメラを用いて被害地域の鳥獣の生態や被害の実態を記録することで、広域防護柵設置に向けた理解促進に役立てました。



【11～3月】「地域計画」策定後の ブラッシュアップ

地域計画は令和6年度中に各市町村（地区）で策定され、その後は地域計画のブラッシュアップに向けた座談会が開催されています。

目標地図の更新や活用されなくなった農地への導入作物の提案などの助言を行いました。

今後も、各市町村（地区）の課題解決に向けた支援を進めます。



**【4月～3月】
先進的農業経営体の育成と経営安定（農業経営者総合サポート事業）**

農業経営体が抱える法人化、労務管理、経営継承等の様々な課題解決に向けて、重点支援対象者等 14 経営体に対し、課題把握や専門家派遣等の伴走支援を行いました。

また、3月24日には「農業経営継承セミナー」を開催し、親子間経営継承で取り組むべき要素と承継のポイントを18名が学びました。



**【3月】
全国農業青年クラブ意見発表会で
優良賞を受賞**

全国農業青年クラブ連絡協議会主催の「全国青年農業者会議 意見発表の部」に関東ブロック大会長野県代表の中野市藤森陽一郎氏が出場し、「質の高い農産物で良い循環を」発表し、見事「優良賞」を受賞されました。

発表に向けて、下高井農業青年の会ぽぷりの会会員と連携し、発表原稿の添削や発表練習の助言などを支援しました。



**【4月～1月】
伝統野菜の生産振興（中山間地農業
ルネッサンス推進事業）**

管内には、信州の伝統野菜が6種存在し、栽培指導等による生産安定、商品開発・販路開拓、小学校での栽培・加工体験を通じた食育を支援しています。

11月11日には、こしょうの新たな可能性を探り、地域全体の価値向上を目的に、「こしょう交流会」を開催し、ぼたんこしょう、ぼたごしょう、ししこしょうの3組織25人が参加しました。各組織から活動報告による情報共有が図られ、今後も継続して開催していきます。